

## 令和 5 年度第 2 回 大阪府食育推進計画評価審議会（書面開催）（概要）

- 日時：令和 5 年 12 月 11 日（月）から令和 5 年 12 月 18 日（月）
- 出席委員：池上委員、伊藤委員、上野委員、大川委員、小原委員、久保委員、清水委員、林委員、藤原委員、三宅委員、森委員、由田委員 12 名（50 音順）

### 1 議 題

#### （1）第 4 次大阪府食育推進計画（案）について

→ 案のとおり承認

##### 【委員からの主な意見】

- ・就学前（7 歳未満）の子どもに対しても調査が出来るように、調査対象を広げてほしい。
- ・早食いは、肥満のみでなく糖尿病や高 TG 血症との関連も報告されているので、その対策は重要。
- ・「ナッジ」の活用について、具体的なイメージがわきにくい。一般市民にはなじみが薄いので、分かりやすい表現にするか注記が望まれる。
- ・ナッジという言葉は第 3 次では出ていない新しい言葉である。最後の用語集での説明はあるが、ナッジを活用して、どのような取組みをするのかも少し記載されれば府民も理解しやすいと感じた。
- ・しきりに「ナッジ」が強調されているが、わざわざ「ナッジ」を使わなくても同じ意図を伝えるための表記が可能だと考える。たとえば、「（ナッジ理論に基づいて）自然に野菜を摂取するように誘導する工夫」などが好ましいのではないか。
- ・生産から消費までの連携について、市などで実践している「体験型農園」（主体は多様）を推進するという項目を入れてはどうか。
- ・全国的にも広がりを見せ、大きな関心を集めているオーガニック給食にも触れるべきだろう。大阪にも有機農業者が多数存在しているし、「みどりの食料システム戦略」の有機農業目標を考慮に入れると、オーガニック給食の供給体制はかなり強化されている。もちろん、課題はたくさんあるので、一度にかつ大幅な切り替えは難しいとしても、その可能性を検討し、部分的にでも導入を図る、という程度の表現はあってもよい。
- ・中長期的な計画期間の食育推進計画に、特定期間で終了するイベントの万博が盛り込まれることの必然性が良く分からない。きちんとした理由が必要だと思われる。
- ・P48 について、以下のとおり修正してはどうか。
  - 各市町村が計画を適切に運用するための助言を行うとともに、計画改定の支援を行います。
  - 各市町村が計画を適切に運用するための連携や協力を行うとともに、必要に応じ計画改定の支援を行います。継続的に食育の推進を検討し、取組みの充実を図れるよう、情報提供や技術的な支援に努めます。
  - 継続的に食育の推進を検討し、取組みの充実を図れるよう、連携・情報提供や技術的な支援に努めます。
- ・本計画（案）の中に、「オール大阪」という言葉が複数箇所示されているが、政令市・中核市との連携について、明確に示されていないように見える。「V.O.S.メニュー（野菜・油・食塩の量に配慮したメニュー）ロゴマーク使用承認件数」のみ目標値が設定されるのは、やや違和感がある。仮に数値目標を明確に示すことができなくても、政令市・中核市が独自で実施している同種の取組みについても、別枠で示し、府全体として、さまざまな取組みが行われていることを示しておくべきと思われる。大阪府の人口の 70%は政令市・中核市であるということに配慮した記載であることが望ましいと思う。

#### （2）その他

ワクワク EXPO with 第 19 回食育推進全国大会についてリーフレットを配布